

海外安全対策情報（2014年1月～3月）

1 社会・治安情勢

（1）警察発表によると、首都カンパラにある犯罪組織は、互いの持ち場を犯さないという暗黙のルールが存在しているとのことです。カンパラ最大の犯罪グループはキフェジ(Kifesi)と言うグループで、主にカツウェ(Katwe)で活動しています。彼らは夜間日中問わず歩行者を標的に携帯電話、鞆、ノートパソコン、現金等を窃取しています。

（2）また、犯罪組織は、子供達に車両のラジオシステム、ヘッドライト、サイドミラー等の車両部品を短時間で取り外す訓練をしており、子供達は部品と引き替えに金銭を得ています。現在、このような子供達がカンパラに約200名いるとされていますので、車両運転時においても十分注意してください。

（3）車両盗難の犯行手口が多様化しています。以前は、駐車中の車両を窃盗することや運転手を脅して車両を強奪する手口が主流でしたが、犯行中に反撃されるリスクが高まってきたことから、現在は洗車場のスタッフと共謀し犯行に及ぶ手口が増加しています。洗車場のスタッフに金銭を渡しスペアキーを作成し、車両主が洗車から引き取った後を尾行します。その後、買い物等で車両から離れた隙を見計らい車両を持ち去る手口となっています(イモビライザー設置車除く)。

また、単独で運転しているドライバーに対し、ボダボダ(バイクタクシー)に乗車した窃盗犯が車両のタイヤを指し、タイヤに異常があるかのように見せかけ車両を停車させます。運転手が車外へ出て来たところ車内から金品を窃取したり車両を持ち去る事件も発生しています。特に、ナカセロ(Nakasero)、コロロ(Kololo)、ンティンダ(Ntinda)で事件が多発しています。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

（1）盗難・強盗事件

○カンパラ県(Kampala)

報道によると(1月22日)、警察は夜間ノーザン・バイパス(Northern Bypass)を違法に道路封鎖していた容疑者40名を逮捕しました。容疑者は主にケニア、ルワンダ、南スーダンからの長距離トラックを標的として犯行に及んでおり、通行を妨害し物資を略奪していました。

○ブダカ県 (Budaka)

1月30日午後6時30分頃、36歳男性が鉄パイプを所持した男性に襲撃され、金品を強奪されました。ブダカ (Budaka)、ムバレ (Mbale)、パリサ (Pallisa) 県では、過去2ヶ月間で同様の事件が5件発生しており、うち3名が死亡2名がムバレ病院に入院しました。

(2) 殺人事件

○ムバララ県 (Mbarara)

1月15日未明、30歳男性の遺体がウィズィ川 (River Rwizi) から発見されました。犯行現場はムバララ橋 (Mbarara Bridge) とされ、犯人が同橋を道路封鎖して被害者を待ち伏せし犯行に及び、射殺後金品を略奪、遺体投棄したものであるとされています。

○西ウガンダ地域 (ムバララ県: Mbarara, カセセ県: Kasese, カバレ県: Kabale, カヌング県: Kanungu, ホイマ県: Hoima)

報道によると(2月16日)、西ウガンダ地域において強盗・殺人・強姦事件が増加していることに住民が不安と地域の安全を訴えています。特に商売人、ボダボダ運転手及びタクシー運転手が被害に遭う事件が増加しています。また、1月23日に10歳の少女が強姦後殺害された事件も発生しています。

○イガンガ県 (Iganga)

報道によると(3月17日)、警備員が12歳の少年から暴言を吐かれたことを理由に武装していた小銃で射殺しました。

(3) 強姦事件

○エルゴン (Elgon) 及びマラバ (Malaba) 地域 (ムバレ県: Mbale, シロンコ県: Sironko, マナファ県: Manafwa, クウェエン県: Kween, ブクワ県: Bukuwa, ブランプリ県: Bulambuli, トロロ県: Tororo, ブタレジャ県: Butaleja, ブシア県: Busia, ブダカ県: Budaka, キブク県: Kibuku 及びパリサ県: Pallisa)

警察発表によると(1月31日)、エルゴン及びマラバ地域では、2012年に少なくとも6,587人が強姦被害に遭いました。2011年には5,599人が強姦被害に遭っており、前年から17.6%増加したことになります。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 1月28日午後、カダガ国会議長宛に送付された小包を事務所職員が開封したところ爆発し、顔を負傷する事件が発生しました。同様の小包がムセベニ大統領、ベシゲ元FDC代表 (FDC: Forum Democratic Change)、メディアマネージャー及び大物実業家等にも配送される予定でしたが、これら小包については警

察により回収されました。なお、この事件について犯行声明は発出されておらず、誰が何の目的で犯行に及んだか現在捜査中です。

(2) ウガンダは「アル・シャバーブ」によるテロの脅威が依然として高く、2月12日及び3月20日、ウガンダを含む東アフリカ地域に対しテロの脅威に係る注意喚起として渡航情報(広域情報)を発出しました。内容については以下のとおりとなっています。

○2月12日広域情報：テロの脅威に伴う注意喚起

ア 2月10日、米 국무省は、2月もしくは3月にウガンダの首都カンパラに対するテロ攻撃の具体的な脅威情報を入手し、ウガンダ国立博物館がその標的の一つであるとして、同博物館への訪問を避けるよう、米国民に対して注意喚起を行いました。また、標的は変わりうるとして、多くの人が集まる公共の場所やイベントを避けるよう併せて注意喚起を行いました。

(http://kampala.usembassy.gov/sm_021014.html)

イ 東アフリカ地域では、ソマリアのイスラム過激派組織「アル・シャバーブ」がソマリア国外でも活動しており、昨年9月21日には、ケニアの首都ナイロビのショッピング・モールを武装勢力が襲撃し、外国人を含む多数が死傷しました。本件に関し、「アル・シャバーブ」が声明を発表して犯行を認め、その後も複数回にわたってケニア軍がソマリアから撤退しなければ同様のテロを起こすと警告を発しており、ウガンダを含むソマリア派兵国及びケニア周辺国で脅威が高まっています。

○3月20日広域情報：ソマリアのイスラム過激派組織によるテロの脅威に伴う注意喚起

ア 3月10日、ソマリアのイスラム過激派組織「アル・シャバーブ」は声明を発出し、ソマリアにおいてアル・シャバーブ掃討作戦を行っているケニア、エチオピア等の外国軍に対する聖戦を実行するよう呼びかけました。

イ 17日、ケニア南部のモンバサで、大型爆弾2個を所持していた男2人が警察に逮捕されました。彼らは「アル・シャバーブ」との関係が疑われており、同爆弾はモンバサで使用される可能性があった模様です。

ウ 17日、ウガンダ警察は、「アル・シャバーブ」が給油所や給油車を攻撃する計画を有しているとの情報を入手し、警戒態勢を強化しました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

○キソロ県 (Kisoro)

報道によると(2月17日)、10歳の男子生徒が学校からの帰宅途中、3人組の男性に誘拐されました。誘拐犯は家族に対し1億Shs(約400万円)の身代金を要求しましたが、警察の捜査により2月15日午前、犯人は逮捕され男子生徒は無事解放されました。

○カンパラ (Kampala)

3月19日、17歳の女性がチャンボゴ大学(Kyambogo University)に通う妹を訪ねた帰りに誘拐されました。その後、犯人から身代金200万SHs(8万円)を要求されましたが、家族が身代金を支払うことができなかつたため、同女性は殺害されました。

※近年、ウガンダにおいても身代金目的の誘拐が増加傾向にあります。現在のところ、日本人が誘拐されるような事件は発生していませんが、現地人(アフリカ諸国)からすれば日本人は裕福に見られることから被害者となり得る可能性も否定出来ないため、滞在中の行動には十分注意してください。

5. 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的にされる可能性は低いです。

以上